

「館小モデル」とは？

学校教育目標から
館山小学校教育目標

○やればできる・・・夢を持って進んで学習する子
○やさしくなれる・・・思いやりのある子
○やすまずできる・・・たくましく活力に満ちた子

【進んで学習する子ども】

- ・学校が好き、たのしい。
- ・勉強が好き、たのしい。
- ・授業が好き、たのしい。
- ・課題を解決することが好き、たのしい。
- ・勉強ができるようになりたい、わかるようになりたい。



【進んで学習する子ども】

【進んで学習する子ども】

・自分の課題を明確につかめる。

・既習事項を生かして、自分なりの方法で追求し、自分の考えを持てる。

・自分の考えを、根拠を明らかにして表現できる。

・友達の考えを、自分や他の友達の考えと比べたり関係づけたりして聞ける。

・話し合いを通して、自分の考えを深めたり広げたりして、より確かな考えを持てる。

・振り返って伸びた力を自覚できる。

・身に付けた学習内容を、生活の中で活用できる。

【進んで学習する子ども】

【進んで学習する子ども】

【教師の授業力】

※子どもに「学習力」をつけ、「進んで学習する子ども」にするために必要な能力・技能

【研究手法】

本校では、大まかな目標や枠組みは規定するものの仮説や検証方法など絞らない「臨床的手法」で研究を進める。
（「臨床的実践研究」）



【教師の授業力】

【教師の授業力】

進んで学習する子どもの育成をめざして —子どもに学習力を！ 教師に授業力を！ 「館小モデル」での取組—

「学習支援体制づくり」

【自分なりの方法で追求し、学習する。】
○学習競技（甲子園プロジェクト）
「漢字甲子園」
「計算甲子園」
「地図甲子園」
※満点の子どもには「博士認定証」を授与
「スプリント甲子園」
※優勝の子どもには「スプリント王・女王」、
決勝進出者には「ファイナリスト賞」を授与
○館小サイエンスグランプリ
（理科自由研究の発表）
※最優秀の子どもには「グランプリ」を授与
○歴史人物検定（年2回）
※満点の子どもには1級を授与
○日本地図検定（年1回）
※満点の子どもには1級を授与

「授業実践」

○公開研究会、年間2回の実施
【一人一実践の実施】
○昨年度の実践報告会の実施
【国語・算数における学習の進め方や約束の共通理解】
・国語・算数主任等による実践報告から（年度初め実施）
○学習会の開催
【外部講師を招聘し、より専門的な指導による研修】
・模擬授業、講演等の実施
○さわやか研修
【若年層教諭による自主的研修】
・学級経営や授業改善など、自分たちの課題への取組

「学習支援体制づくり」

【基礎的・基本的な知識・技能の習得を重視する。】
○学力ケアプロジェクト（給食準備の時間に算数個別指導）
○国語・算数チャレンジタイム
（5時間目前に10分間の基礎学習）
○基礎・基本の時間 ※3年生以上
（1～2月に習熟度別で計算力の強化）
○漢字・計算の習熟の取組
（当該学年の漢字・計算が身につけているかの確認テストを2月に全学年で行う）
○レベルアップ講座（3学期に5年生対象）
○少人数・専科教員による複数体制での授業
○特別支援教育による個に応じた指導
○特別支援教育学習支援員との連携による合理的配慮に基づいた指導

【自主的に学んでいく仕組みを持つ日常的な教育活動】
○サテライト経営
○教職員の創意工夫を生かした教材教具
○電子黒板（10台配備）とタブレット・デジタル教科書の効果的な活用

【日常的な指導の実践】
○なかよし言葉運動
○館小ルール10
○家庭学習のすすめ
○けんこうせいかつチェック

「学力形成を支える学習環境」

「学習へ向かう姿勢づくり」

「子どもの実態把握」 子どもたちの実態を多面的に捉え、指導の手立てや指導計画等の作成に生かす。

各種調査から

国語・算数における意識調査
家庭学習のふりかえり
なかよし言葉チェック
千葉県標準学力検査
全国学力学習状況調査
「hyper-QUテスト」等

日常観察から

登下校の状況、授業中や休み時間等の様子から、子どもたちの人間関係を観察し、学びに向かう雰囲気づくりに生かす。



学習の評価から

発言、ノート、学習作品、ワークテスト等から、個人や学級の傾向をつかむ。

